

2025 年 7 月 30 日

学校法人 塚本学院

報道機関各位

大阪芸術大学にて演奏学科客員教授の DJ KOO 先生と

DJ HANGER さんによる特別講義を実施

■実際に DJ プレイの披露も！学生たちに熱意あふれるエールを贈る

大阪芸術大学（学校法人塚本学院／所在地：大阪府南河内郡／学長：塚本邦彦）は、7 月 3 日（木）に大阪芸術大学 14 号館ホールにて、演奏学科ポピュラー音楽コース客員教授の DJ KOO 先生による特別講義「DJ 活動 45 周年スペシャル!!～DJ によるダンスミュージックの軌跡をたどる～」を実施しました。当日は DJ KOO 先生が、自身の経歴と照らし合わせながらダンスミュージックの歴史を紐解いたほか、DJ の技法の一つであるスクラッチの世界大会「1999 VESTAX WORLD FINAL SINGLE WEAPON JOUST」優勝者の DJ HANGER さんもゲスト講師にお招きし、実際の DJ プレイを披露しながら、学生たちにエールを贈りました。



演奏学科ポピュラー音楽コース客員教授の DJ KOO 先生による特別講義「DJ 活動 45 周年スペシャル!!～DJ によるダンスミュージックの軌跡をたどる～」では、DJ KOO 先生自身の経験や思いが言葉や音楽とともに発信されました。本講義を通して、学生たちはダンスミュージックと DJ の歴史を深く学ぶだけでなく、音楽の持つ力や表現の可能性を改めて実感し、会場は終始、笑顔と熱気に包まれました。

登壇した DJ KOO 先生は、「みんなで一緒に楽しく学んで、刺激と衝撃を与えて、いい 90 分にしたいです！」と呼びかけ、学生たちの気分を高めます。そして「ご挨拶がわりにみんなで体を温めていきましょう」と今回の講義のためにセッティングされた DJ ブースに立ち、EDM 系のダンスミュージックを鳴らすと、学生たちは一斉に両手を挙げてノリの良い曲に身を委ねます。そして「温まってきた？ちゃんと講義をやりますんで。楽しんでいきましょう」と、この日の講義のためにびっしりと書き込んできたノートを開いて講義が開始されました。



DJ KOO 先生の特別講義は、EDM 系のダンスミュージックの DJ でスタート



「僕の 45 年の DJ 活動を振り返りつつ、こんな音楽が刺さったということをみんなにお伝えしていきます」と話す DJ KOO 先生

DJ KOO 先生はまず、高校時代に初めてディスコへ行って DJ を見たときのことや、1980 年代より自身が DJ 活動を始めた時期のダンスミュージックシーンについて回想し、当時は「キャンディ・ポップ」が日本で流行し、西ドイツのグループであるアラベスクなどヨーロッパ独自のメロディ感を持つ音楽が人気だったことなどを解説しました。また、DJ KOO 先生は新宿のディスコからキャリアをスタートさせましたが、「当時の東京のディスコは六本木と新宿の二つのシーンがありました。六本木のディスコの DJ は曲を綺麗に繋ぐもの、新宿は喋りをはさみながら曲をかけるもの。僕は新宿のディスコで見習いの頃から『さあ、行こうぜ』と言いながら DJ をやっていました」とエリアによって DJ のプレイスタイルも異なっていたそうです。



サンプラーなどを駆使し、世界的なヒット曲にいろんなアレンジを施しながら、曲と曲を繋いでいく



DJ KOO 先生はもともとギタリストを目指していたものの、挫折。しかし高校時代に足を運んだディスコで DJ の魅力に取りつかれた

今回の DJ KOO 先生の特別講義は、常に楽曲をうつつらかけながら進められました。YMO、アース・ウィンド・アンド・ファイアー、シュガーヒル・ギャングなどがいかにダンスミュージックや DJ のシーンにおいて重要な存在だったのかを実際に曲を流しながら説明され、当時を実体験していない学生たちも、臨場感をもってそれらの楽曲について気づきを得ることができている様子でした。



講義に登壇するミュージシャンの楽曲を実際に流しながら解説。その様子はさながらラジオ番組のよう



DJ KOO 先生の DJ ブレイの背景には、豊富な音楽知識と探究心がある。それがうかがえる講義を聞き入る学生たち

講義中盤からはゲスト講師の DJ HANGER さんが登場し、学生たちはより熱気に包まれます。DJ KOO 先生は「スクラッチは DJ の可能性を広げたもの」と言い、学生たちは、DJ HANGER さんをぐるっと囲んでスクラッチを目の当たりにしました。DJ HANGER さんは、ターンテーブルを華麗にこすり、フェーダーを素早く動かしながらプレイします。スクラッチで音楽を構築する DJ HANGER さんと湧き上がる学生たちの様子を見て、DJ KOO 先生は「そうそう、こういう刺激なんですよ」と笑みを浮かべました。



スクラッチの世界大会を制した DJ HANGER さんは、“背面スクラッチ”などを披露して学生たちを驚かせた



DJ HANGER さんは「15 歳くらいからスクラッチを始め、それから 3、4 年はいつも 10 時間以上、練習していました」と回想



DJ KOO 先生は、DJ HANGER さんのスクラッチを聴いて「めちゃくちゃ気持ちいい」と絶賛

特別講義のラストには、DJ KOO 先生と DJ HANGER さんによる DJ セッションが行われました。現在のトレンド曲が流れると、その曲の振付をする学生たちの姿もありました。最後に DJ KOO 先生が「毎日の練習を信じていろんな人にエンターテインメントを届けてください。失敗しても、何と思われても、一回『やってみよう』と思ったら一歩を踏み出してください」とメッセージを投げかけると、学生たちから拍手が起こります。ダンスミュージックと DJ の歴史を学びつつ、音楽の楽しさをあらためて実感できる特別講義になりました。



特別講義の締めくくりは、DJ KOO 先生が楽曲を流し、DJ HANGER さんがスクラッチをはさみ込むセッションが行われた



セッションのラストは TRF の代表曲「EZ DO DANCE」。DJ KOO 先生のラップパートも生披露された



今回の特別講義はまるで DJ KOO 先生のコンサートのよう大きく盛り上がった。学生たちも笑顔が弾ける

■インタビュー

演奏学科ポピュラー音楽コース客員教授 DJ KOO 先生

今日の講義で学生のみなさんに話し忘れたことが一つあります。それは「新しいものをやるということは、まわりから理解されないことでもある」です。新しい挑戦をしたとき、否定的なこともたくさん言われるはず。それは音楽だけではなく、すべての仕事に言えること。たとえば 2000 年代に入って、僕はバラエティ番組にもたくさん出演させていただけるようになりました。でも同時に、「DJ KOO は仕事なくなったのか」とも言われました。だけどバラエティ番組の現場は自分もスタッフさんもみんな真剣勝負。人に笑いを届けることってどれだけ大変で素晴らしいことか学ぶことができ、現在の活動に生かされています。周りに理解されないと、ついつい「どうしたらいいんだろう」となりますが、その葛藤をどのように乗り越えるか。迷いながら、そして疑問を持ちながら、とにかく突き進むしかない。一方、ただ単に「これは誰もやっていない新しいことだ」だけではいけません。目的を持つことが大事です。僕はいつも目立つ格好をしています、これは立体的で派手な色柄のものを身につけ、自分自身も、そしてお客様も元気に、幸せになって欲しいから。自分なりに目的を持って挑戦すれば、格好良さが生まれます。あともう一つ、いろんな人の経験を聞くこと。僕は今回の講義で、いろんな経験の中で自分の体の中に染み込んだ音楽と言葉を学生のみなさんに届けました。知らない曲も



多かったでしょうが、僕がDJとして実際にプレイすることでリアルタイムのように感じてもらいました。そうやって誰かが経験してきたことを、見て、聞いて、そして自分のものにするのは非常に価値があります。いろんなことをどんどん取り入れて、自分のクリエイティブを刺激してほしいです。

DJ HANGER さん

DJ KOO さんはまさにエンターテイナー。今回は特別講義なのに、学生さんたちの気持ちをあんなに上げることができるなんて、本当にすごいです。コンサートみたいでした。そしてなにより、今回の特別講義に参加して感じたのが、大阪芸術大学の学生の方々の、貪欲さと興味があることに対するエネルギーの大きさです。クリエイティブに大切なのはパッションとオリジナリティ。特に情熱がなければ、練習をやらなくなってしまうでしょうし、音楽も聴かなくなります。また、オリジナリティを出すのは難しいのですが、自分が知る限りでいいので「これは誰もやっていない」ということに挑戦した方がいい。僕もヒップホップバトルでDJを務め、そこでビートを流すとき、トランスミュージックのレコードを2枚使いしたりしていました。自分が知る限り、そういうDJはいませんでした。パッションとオリジナリティがあれば音楽は続けられます。その中で、人気やセールスが付いてくれば最高だと思います。



■学生インタビュー

演奏学科ポピュラー音楽コース 2年生 坂口慎太郎さん

DJ KOO 先生は、ご自身が経験してきたことを詳しく教えてくださいまし、音楽のルーツをととても大切にしていってほしいことも伝わってきました。僕が好きなヒップホップについてもいろいろ知ることができました。なによりDJ KOO 先生は、音楽がすごく好きなことがお話を聞いていて分かります。音楽についてすごくストイックに向き合っているんじゃないでしょうか。そしてだからこそ、DJをやっているときも、お話をされているときも「この人はすごい」とオーラが感じられるのだと思います。僕はラップをやっていて、「音楽で飯を食う」が目標です。ラブとピースを歌い、誰かの心を救っていきたい。そのためには大学在籍中に売れることが目標。名前をすでに広げている同期はたくさんいますし、僕は高校時代から焦りを感じています。大学在籍中に売れなければ音楽を辞める覚悟で、音楽に取り組みたいです。



演奏学科ポピュラー音楽コース 1年生 桂崇之さん

DJ KOO 先生の特別講義は、学生たちがライブの観客として盛り上がりながらお話を聞くようなスタイルなので、いつも受けている講義とはまた違った楽しさがあります。DJのパフォーマンスでものすごく盛り上げながら、音楽の歴史、機材などについて細かく教えてくださいましたところも魅力的です。そういったことがDJの技術などにもあらわれている気がしました。どういう風に曲と曲を繋いでいるのかとか、そのとき機材をどのように使っているかなど、興味深いことばかりでした。DJ KOO 先生の特別講義を聞いて、「好きなことは、自分でどんどん研究していった方がいい」と刺激を受けました。僕は現在、ラップをやっていて、またトラックも制作しています。大阪芸大在学中に売りたいです。マルチに活動し、SNSを中心とするインフルエンサー、そしてトラックメイカーとして存在を広めたい。好きな音楽を辞めたくないからこそ、在学中に結果を出し、好きなことを好きなだけやりたいです。



演奏学科ポピュラー音楽コース 2 年生 木林幹太さん

ご登壇された瞬間「わっ、DJ KOO さんだ！」とテンションが上がりました。特別講義も、DJ KOO 先生のライブを見ながら、合間、合間で知識も与えてくれるような内容で、とても楽しくて一瞬で終わりました。音楽の歴史について解説されているときも、話に出てくる曲を BGM としてかけてくださったりし、学生たちがその音楽についてより理解できるように工夫されていらっしゃるのも印象深かったです。あと講義後、DJ KOO 先生に話しかけたのですが、すごく優しくご対応くださいました。僕だけではなく、ほかの学生にも一人一人に対して丁寧に接していらっしゃる、リスペクトを感じます。僕は作曲をメインに学んでいるので DJ は未知の世界ですが、先生のお話を聞くとうごく興味が湧きます。僕は音楽活動を主体にしながら、演技、ダンス、人前で話すことなどバラエティに富んだ活動をして、作ったものだけではなく人柄も肯定されるような人間になりたいです。だからこそ DJ KOO 先生の姿勢は学びになりました。



演奏学科ポピュラー音楽コース 2 年生 木村ももさん

DJ KOO 先生はすばらしい感性を持っていらっしゃる方だと思います。私は 2024 年に開かれた特別講義も出席し、DJ が使用しているヘッドホンがどのように聴こえているのかなど教えていただきました。またそのとき、曲を流すタイミングや、お客さんのテンションを上げるためにどうするかなど、“数ミリ単位”の技術が必要であることと同時に、優れた感性が必要であることに気づかされました。今回の特別講義でも、学生が手を挙げて盛り上がっている背景には DJ KOO 先生の細かいテクニックと感性があることが分かりました。また、この日の特別講義のために、ご自身が経験したことなどが書かれたノートを用意してくださり、芸能活動でお忙しい中、学生のことを思ってしっかり準備してくださる姿に感動しました。そんな DJ KOO 先生から教わったことを今後の自分の音楽活動に生かしたいです。シンガーソングライターを目指していて、今は歌の実力を伸ばすために練習しています。学生のうちにできることを目一杯やり、4 年生の最後にはワンマンライブを開催したいです。

